

漢方薬で癒す こころとカラダーラー

神經痛に桂枝加朮附湯

「コロナワクチンの

副反応にも有効

梅雨の時期は、体のあちらこちらが疼きます。特に訴えが多い場所は、三叉神經痛による顔から頭、肋間神經痛による胸、坐骨神經痛による股関節からふくらはぎにかけての痛みです。これらは三大神經痛と呼ばれます。通常は、解熱鎮痛作用がある非ステロイド性抗炎症薬を用います。しかし、こうした痛みは繰り返すことが多いため、だんだん効果が低下する耐性や薬が止められなくなる依存症が出現したり、副作用として胃腸症状が出ることもあります。

こうした神經痛に対して、

漢方薬では桂枝加朮附湯が広く使われます。桂枝加朮附湯は、体を温め循環を良くして痛みを取ります。耐性も依存症も起

桂枝加朮附湯

けいしかじゅつぶとう

効能又は効果：関節痛、神經痛

※必ず医師の指示のもと服用してください。

池野医師が書籍を出版！

Dr.イケノの 思春期お悩み相談室

漢方薬で癒すこころとカラダ

著：池野一秀

価格：3,278円(税込)

B6判・180頁

発行：新興医学出版社

当院1階売店
「ハーモニー」
にて好評発売中！



こらず、胃腸障害もありません。神經痛だけでなく、関節痛や筋肉痛にも効果があります。一方、この春からコロナワイルスワクチンの接種が開始され、医療従事者の間でも肩が痛くなり腕が上がらなくなる副反応が問題になりました。そうした症状に対しても、桂枝加朮附湯の内服で改善効果が見られました。

(小児科部長 池野一秀)

